



伊賀 *iga* 加賀

自然と共生の精神しんしん

まち煌めくまわ

俳聖 松尾芭蕉が愛した

かけがえない自然と人、

人と人、人と地域が繋がり合つて、

伊賀をさらさら輝かせています。



三重県
伊賀市
市勢要覧



平成16年11月に発足して3年。

伊賀市は、助走のステージを経て、
希望に満ちた未来に向かって飛躍のときを迎えています。

エネルギッシュなパワーを秘めて
躍動する伊賀の“いま”の姿を紹介します。



2 — 巻頭特集 其の壱

伊賀の風景

6 — 巻頭特集 其の弐

俳聖

松尾芭蕉

【第1章】

10 — **伊賀の地** — 伊賀人を育む大地 —

12 — 文武に長けた武将と上野城 — 藤堂高虎と上野城 —

14 — 脈々と受け継がれる誇り — 歴史遺産 —

16 — 都と東国を結ぶ道 — 街道 —

18 — 高き志、影に生きた忍び — 伊賀忍者 —

コラム

20 — 偉大なる伊賀人 ~伊賀の偉人たち~



【第2章】

22 — **心意気** — 伊賀人の想い —

24 — 素朴であたたかい 伊賀焼

26 — 大地の醸成 — 特産・名物 —

28 — 伝わりゆく祭 — 祭 —

コラム

32 — 伝える伊賀人 ~イベント~



【第3章】

34 — **煌めく人・まち** — 伊賀人が輝かせるまちづくり —

36 — のびのびと健やかに暮らせるうるおいあるまちづくり

「安心・安全・快適・便利」

38 — ふれあいを大切にし、地域の資源を守り伝えるまちづくり

「継承・共生・交流」

40 — 豊かな心を育み、すべての人が生きがいを持てるまちづくり

「意欲・平等」

42 — 市民が主役、地域が主体となる分権型のまちづくり

「分権・自治」

コラム

44 — 光る伊賀人 ~フォトギャラリー~

46 — 伊賀ぶらり巡り

48 — 伊賀市マップ

付録

50 — 歴史年表

56 — 市民憲章・市鳥・市木・市花・市歌

57 — 市長あいさつ



頭集
巻特

其の七

伊賀の 風景

四季折々に様々な表情を見せる伊賀。伊賀出身の俳聖松尾芭蕉は、ふるさとの四季を句に詠みました。芭蕉の名句が案内する、伊賀の情緒豊かな春夏秋冬の情景を見てみましょう。

伊賀殿の桜

初桜

折しもけふは

能日なり

(伊賀の茶屋町境内に初桜が咲き始めたこの日は、片側通行の初会合を主催する「Gunsaid」が「春Gimmick」)

余野公園のつつじ



百里来たり
ほどは雲井の

下涼

岩倉 映

（宇江戸から百里の道を隔てて、故郷の伊賀上野の雲の下で心穏やかに泳いでいる。）



なつ木立

はくやみ山の

こしふさげ

（深山も雲になると、中濃の木立がこもりと籠って、（人が）腰に小太刀を差したようだ。）

青山高原



杜若

にたりやにたり

水の影

（杜若の水に映った影は水物そっくりで、まさしく、「にたりやにたり」だ。）

芭蕉翁記念館の杜若

巻頭特集 其の七

伊賀の風景

月ぞしるべこなたへ入せ 旅の宿

（旅のお方、どうぞ、月の光をまじしるべにして、こしらへ入って宿をおとりなさい）

初瀬街道

行くあきや

手をひろげたる

栗のいが

（ふるさとの人と別れて山道を行く
と、栗の木の枝に手のひらを懸け
たよりの栗のいががついていて、
行く秋を懐しんで呼び寄せようとし
ているように見えます）

釣月軒の栗



年暮ぬ
笠きて草鞋
はきながら

(笠の裏面に、草鞋をはいて、長
い草鞋の紐を、土間に引くように
引く様子を写した。)

芭蕉翁生家



寂まじろ
帷子雪は
こもんなかな

(静まじりに降るぼたん雪は、ちょうど染
模様の帷子紋(縞物)のようだ。)

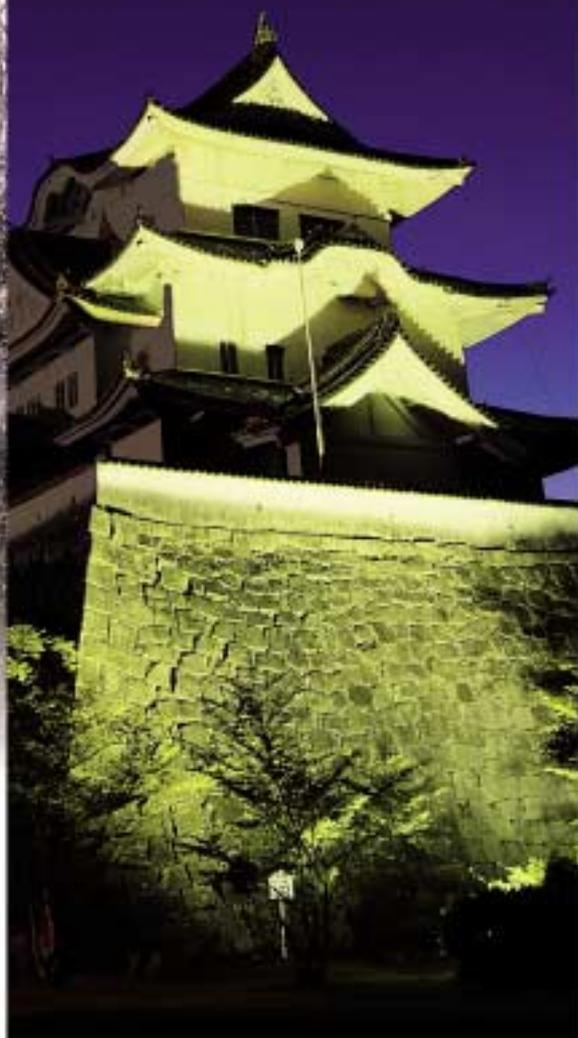
上野公園の雪化粧



今宵誰よし野の月も十六里

(私が月を眺めている場所から古野は十六
里も離れているが、今夜の名月を古野の山
では、誰が愛でているのだろうか。)

月夜に浮かぶ上野城



頭集
卷特

其の弐

俳
はいせい
聖

Master Haiku Poet
Matsuo Basho

松尾芭蕉

まつおばしょう

伊賀出身の松尾芭蕉は俳諧の世界に偉大な足跡を残しました。漂泊の詩人として知られる芭蕉ですが、ふるさと・伊賀は終生、彼にとって特別に大切な場所でした。伊賀を心から慈しんだ俳聖の思いは、今も有形無形に息づいています。



松尾 芭蕉 (まつおばしょう)

【1644-1694】

正保元年（1644）、伊賀に生まれる。遊戯性が強かった俳諧を芸術にまで高めた功労者で、『奥の細道』をはじめ優れた俳諧紀行を残した。元禄7年（1694）大阪で没する。“俳聖”と呼ばれる彼の作品は日本はもとより世界で広く読まれている。

松尾芭蕉 略年譜

和暦（西暦）年齢	項目
正保元年(1644年) 0歳	伊賀国に生まれる。幼名を金作、長じて宗房と名乗る。
明暦2年(1656年) 13歳	父・与左衛門が死去する。
寛文2年(1662年) 19歳	藤堂藩伊賀付侍大将の藤堂新七郎家に出仕。当主嫡子・良忠(俳号・蟬吟)に仕える。作句年次が判明している最初の発句を作る。
寛文6年(1666年) 23歳	藤堂良忠が25歳で死去。
寛文12年(1672年) 29歳	三十番発句合『貝おほひ』が成る。これを伊賀上野天満宮に奉納。江戸に行く。
延宝2年(1674年) 31歳	北村季吟から連歌俳諧の秘伝書『埋木』の伝授を受ける。(江戸行きを『埋木』伝授後とする説あり)
延宝3年(1675年) 32歳	東下中の西山宗因を歓迎する百韻俳諧に一座。「桃青」号を使う。
延宝5年(1677年) 34歳	この年から4年間、神田上水の修理工事事務に携わる。この頃、宗匠になる。
延宝8年(1680年) 37歳	『桃青門弟独吟二十歌仙』を刊行。江戸俳壇で確固たる地位を築き始める。
天和元年(1681年) 38歳	門人の李下から芭蕉一株を贈られる。芭蕉が見事に繁ったことから、草庵を「芭蕉庵」とし、俳号にも「芭蕉」を用いるようになる。
天和2年(1682年) 39歳	未達編『俳諧閑相撲』を刊行。『武蔵曲』に初めて公に「芭蕉」号を使用する。大火で芭蕉庵が類焼する。
天和3年(1683年) 40歳	母が死去し、上野農人町の愛染院に葬られる。冬に第2次芭蕉庵が完成。
貞享元年(1684年) 41歳	門人の千里を伴い、『野ざらし紀行』の旅に出る。伊勢を経て、伊賀上野に到着。その後、吉野、大垣、名古屋を訪れる。
貞享2年(1685年) 42歳	伊賀上野で新年を迎え、4月に江戸に戻る。
貞享3年(1686年) 43歳	芭蕉庵で蛙の二十番句合を興行。「古池や蛙飛び込む水のをと」を作る。
貞享4年(1687年) 44歳	曾良と宗波を伴い『鹿島紀行』の旅へ出る。10月、『笈の小文』の旅に出る。12月末、伊賀上野に帰郷する。
貞享5年(1688年) 45歳	越人を伴い、『更科紀行』の旅に出る。
元禄2年(1689年) 46歳	曾良を伴い『奥の細道』の旅に出る。奥羽を回り、北陸道を経て、伊賀上野に帰郷する。膳所の義仲寺で年を越す。
元禄3年(1690年) 47歳	膳所から伊賀上野へ戻り、再び膳所へ赴く。9月末、伊賀上野に戻る。大津で越年する。
元禄4年(1691年) 48歳	1月上旬、伊賀上野に戻る。去来の草庵・落柿舎に滞在し、『嵯峨日記』を著す。7月に『猿蓑』を刊行。10月、江戸に戻る。
元禄5年(1692年) 49歳	第3次芭蕉庵が完成し、入庵する。
元禄7年(1694年) 51歳	『奥の細道』素龍清書本が完成する。5月、伊賀上野に帰郷。9月、滞在先の大阪で病に倒れる。10月8日、「旅に病んで夢は枯野を駆け廻る」の句を作る。同月12日、死去。同月14日、遺言により義仲寺に埋葬される。



●故郷塚

松尾家の菩提寺・愛染院の境内に設けられた茅葺き屋根の小堂に築かれた自然石の塚で、大阪で客死した芭蕉の遺髪が納められている。

俳諧に魅せられた人生

五

・七・五の十七文字で心象風景を豊かに詠い上げ、世界最短の詩として知られる俳諧の世界で、「俳聖」と称えられるのが松尾芭蕉です。

芭蕉は、江戸時代前期の正保元年(一六四四)、伊賀の国に生まれました。芭蕉と俳諧との出会いは十代後半の頃、伊賀で流行していた俳諧に興味を持ち、句作を始めました。同じ頃、出仕した藤堂新七郎家の嫡子・良忠が俳諧をたし

なんでいたことも俳諧熱に拍車をかけました。良忠が若くして病死したため仕官の道が閉ざされた芭蕉は、俳諧の道に究めることを決意し、さらに研鑽を積みました。

その後、江戸に出た芭蕉は三十代半ばで俳諧の宗匠になり、多くの門人を抱えるまでになりました。芭蕉という俳号は、弟子から贈られ、庵の庭に植えた芭蕉の株にちなんでいます。



芭蕉公園

A life enchanted with haiku

Master haiku poet Matsuo Basho was born in Iga in 1644. After encountering haiku in his late teens, he developed a taste for writing them. Later, he decided to make a career for himself as a haiku poet and went to Edo. He became a haiku master in his mid-thirties.

松尾芭蕉

月日は百代の過客にして、
行かふ年も又旅人也



「奥の細道」復刻本



● 萩虫庵

伊賀にあった芭蕉ゆかりの5つの草庵のうち、唯一現存する庵。芭蕉の門弟・服部土芳が聞き、芭蕉亡き後、ここを拠点に蕉風俳諧の普及に努めた。



上野天神宮の句碑

旅に生き、旅を栖とした 漂泊の詩人

人 生そのものを旅になぞらえた芭蕉は、後半生のほとんどを旅の空の下で過ごしました。自然を愛し、各地の美しい風景を精力的に訪ね歩いた芭蕉は、その旅の成果をいくつもの紀行文に著しました。そうして生まれたのが、「野ざらし紀行」を始めとするすばらしい紀行文の数々です。中でも「奥の細道」は、彼の最高傑作であると同時に、わが国の紀行文学の最高傑作

とされています。

とされています。

「奥の細道」の序文に書かれた「日々旅にして旅を栖とす」という言葉通りの生涯を送った芭蕉でしたが、旅の合間には、たびたび伊賀に帰郷するなど、終生あることを忘れない一面もありました。

芭蕉は五十一歳で生涯の幕を閉じましたが、亡くなったのは、故郷でも住まいのあった江戸でもなく旅先でした。まさに旅に魅入られ、旅に生きてきた一生でした。

A wandering poet who lived and died as a traveler

Comparing life to a journey, Bashō spent most of the latter half of his life traveling and writing an account of his travels. His masterpiece *Oku no Hosonada* is one of the best examples of "journey" literature in Japan. He died at the age of 51 during a journey. His life was full of journeys.



松尾芭蕉像

後世に伝えられる芭蕉の偉業

伊

賀市内には、伊賀の地名を成してからも、たびたび郷里に戻ってきた芭蕉ゆかりの史跡が数多く残っています。生家や青年時代に書斎として使った釣月軒、市内の各所に七十数カ所建てられた句碑などがあり、芭蕉の足跡を訪ね

て歩くことができます。

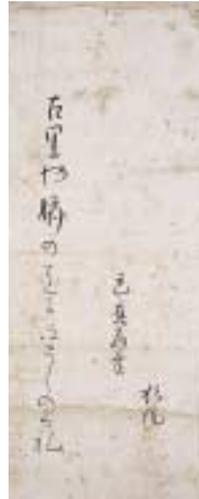
芭蕉の功績を顕彰する施設もあります。上野公園内の芭蕉翁記念館は、芭蕉の真蹟など充実した資料を常時展示しています。このほか、芭蕉の旅姿をモチーフにしたユニークな外観の俳聖殿なども見ものです。

Legacy of Basho's great feat

In Iga City, Basho's beloved hometown, there are many historical sites related to him, including his birthplace, Chogetsuken, which he used as a study and over 70 stone tablets inscribed with haiku. There are also facilities built in honor of Basho's achievements in Ueno Park, such as the Basho Memorial Museum and Haiseiden.



芭蕉翁記念館



●芭蕉筆「古里や」句切
貞享4年(1687)に帰郷した折、亡き父母を偲んだ一句「古里や臍のをに泣としのくれ」の自書。



●芭蕉筆「自然」一行物
芭蕉が俳諧で理想に掲げた「自然(じねん)」が大書されている。芭蕉の真筆でこれほどの大書は希少。



●松尾半左衛門宛芭蕉遺言状
大阪で病床に臥した芭蕉は、亡くなる2日前に兄の松尾半左衛門に宛て、自筆で遺言状をしたためた。

インタビュー 芭蕉祭

わたしたち芭蕉祭市民合唱団は、松尾芭蕉の命日に行われる芭蕉祭式典のフィナーレで「芭蕉」と「奥の細道」の2曲を合唱しています。毎年、一般公募で参加者を募っており、何回も練習を重ね本番に臨むのですが、年に1度限りの祭りなので、うまくできるととてもうれしいですね。今後は、もっとたくさんの方に

芭蕉祭に参加してほしいですし、そのためにも次代に残すべき祭りとして若い人に広めていきたいですね。



芭蕉祭市民合唱団 服部明さん



●俳聖殿で行われる芭蕉祭

毎年、芭蕉の命日である10月12日に催される芭蕉祭。俳聖松尾芭蕉の遺徳を偲ぶ祭りで、式典をはじめ、全国俳句大会などの行事や各種団体による協賛行事が催される。

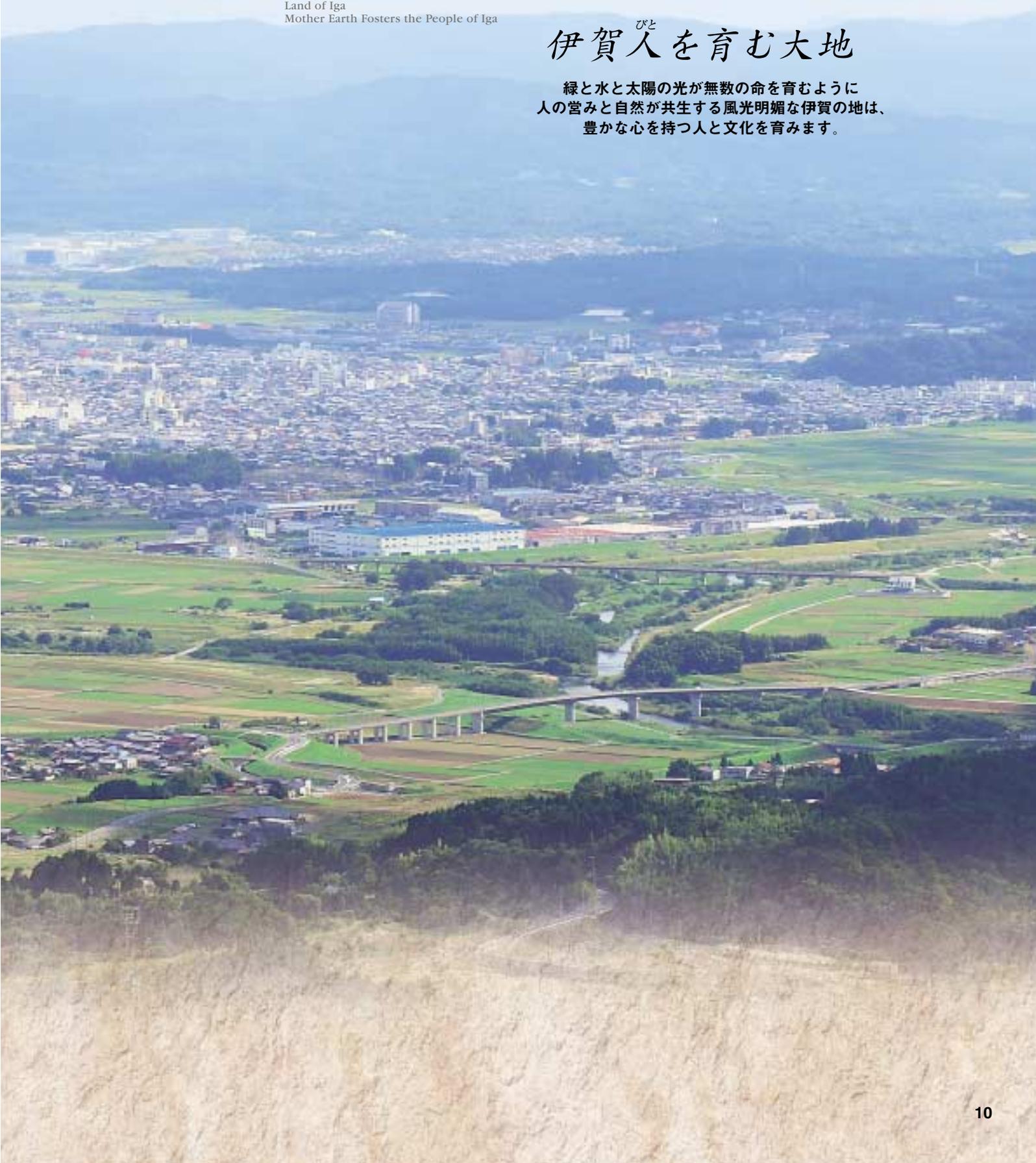


伊賀の地

Land of Iga
Mother Earth Fosters the People of Iga

伊賀^{びと}を育む大地

緑と水と太陽の光が無数の命を育むように
人の営みと自然が共生する風光明媚な伊賀の地は、
豊かな心を持つ人と文化を育みます。





往時の姿を伝える高石垣

上野城は、伊賀の歴史で重要な役割を果たしてきました。上野盆地の中心に位置する高台にそびえる優美な姿は、「白鳳城」という異名にふさわしいものですが、白壁に瓦葺き木造三層の天守閣は、昭和十年に復興されたものです。築城当時の姿をとどめているの

は、日本有数の高さ誇る三十メートルの高石垣です。慶長十三年（一六〇八）に伊勢・伊賀の藩主になった藤堂高虎が、全国に知られた石工集団・穴太衆に築かせたもので、当時の最高水準の出来とされています。

High Stone Walls reminiscent of old times

Ueno Castle, the symbol of Iga City, is also known as Hakuho Castle because of its elegant, white phoenix-like appearance. Since the donjon was rebuilt in 1935, the 30m-high stone walls, one of Japan's highest walls, which were built by Ise and Iga's feudal lord Takatora Todo in 1608, are the only parts remaining from the original castle.

A General skilled in both literary and military arts and Ueno Castle
Takatora Todo and Ueno Castle

文武に長けた

武将と上野城

藤堂高虎と上野城

戦国武将の藤堂高虎が築き、国城として長い間、伊賀の政治の中心だった上野城は、まちのシンボルとして市民に愛されています。



●上野城の高石垣

各国の城郭の石垣を手掛けた穴太衆により、打ち込みはぎと呼ばれる技法で築かれた。本丸の西側に築かれたのは、大阪ににらみを利かせるためとも言われる。



●藤堂高虎（1556～1630）肖像画

近江国犬上郡在土村の土豪、藤堂高虎を父に持つ。戦乱の世に武勲を上げて頭角を現す。関ヶ原の合戦から徳川家に仕え、徳川方の重臣として重用され、32万石の大大名にまで上り詰めた。

城にかけて熱い思い
藤堂高虎は、百戦錬磨の戦国武将にして築城の名手でした。高虎が伊賀の藩主に任じられた当時、伊賀は、徳川家にとって気がかりな存在だった豊臣家の本拠地、大阪に対する最前線の地でした。外様大名でありながら徳川家康の信任が厚く、「伊賀は秘蔵の国、上野は要害の地、根拠とすべし」と内意を受けた高虎は、持てる技術と知識を結集して上野城初代藩主・筒井定次が築いた城の大改修を行いました。日本有数の高さを誇る高石垣に、当時の高虎の意気込みがうかがえます。

A Passion for Castles

Takatora Todo was an expert at building castles. After being appointed as the feudal lord of Iga, under secret orders of Iyeyasu Tokugawa, the founder of the Edo Shogunate, he implemented repair work on Ueno Castle, which was built by the first Iga feudal lord Sadatsugu Tsutsui to keep a watchful eye on Osaka Castle, home to Tokugawa's rival Toyotomi. This was when he built the high stone walls.

特集

上野城内部の資料館

昭和十年に復興された天守閣内部は、郷土資料館になっています。藤堂高虎が豊臣秀吉から拝領し、藤堂玄蕃に与えた兜を始め藤堂藩ゆかりの武具などの歴史資料や、伊賀焼、絵画、書軸など文化産業資料が展示されています。また、小天守の中には、縦横に抜け穴がある「忍び井戸」とよばれる深井戸が残されており、当時の面影を今に伝えています。



脈々と受け継がれる誇り

— 歴史遺産 —



●高倉神社本殿・八幡社・春日社

本殿及び八幡社は一間社流造、春日社は一
間社春日造で、桧皮葺の屋根が共通して
いる。朱塗りの柱や擬宝珠付きの高欄など華
麗な桃山時代の建築様式を伝えている。

古くから交通の要衝として栄え、
独自の文化を育んできた伊賀は、
社寺や仏像をはじめとする文化財
の宝庫です。

歴史を物語る文化財

伊賀市には、歴史的建造物や
美術工芸品など数多くの文化財
があります。いずれも歴史的、
文化的、民俗的に貴重なものが
多いのが特徴です。国の重要文
化財になっている高倉神社本
殿・八幡社・春日社、猪田神社
本殿、正月堂楼門・本堂、木造
十一面観音立像、萬寿寺の木造
地藏菩薩坐像をはじめ、国指定
、県指定、市指定を受けているも
のを合わせると数百点、指定を
受けていないものも含めるとそ
の数はさらに増えます。

これらの文化財は、京都や奈
良の都に隣接し、街道筋のまち
としてにぎわい、近世に入って
からは藤堂藩のお膝元として栄
えてきたまちの来し方を雄弁に
物語っています。



新大仏寺 木造如来坐像



●萬寿寺 木造地藏菩薩坐像

萬寿寺の本尊で南北朝期の作とされ、
当代きっての慶派仏師の作風がうか
がえる。



西音寺 木造薬師如来坐像

Cultural assets reminiscent of history

Iga City is home to a number of cultural assets. Including national, prefectural and municipal cultural assets, they amount to several hundred sites. They include Takakura Shrine's inner sanctuary, hachimansha and kasugasha; a national treasure, the main hall of Ida Shrine, the tower gate, main hall and the wooden standing image of the eleven-faced Kannon of Shogatsudo and the wooden sitting image of Jizo Bosatsu in Manjuji Temple.



大村神社宝殿

●正月堂 木造十一面観音立像

正月堂は天平年間開基と伝えられる古寺。本尊・木造十一面観音立像は33年に一度開帳される秘仏で、平安時代の作である。

Roads linking the Old Capital with Eastern Countries
Main Roads

都と東国を 結ぶ道

— 街道 —

京都や奈良の都に隣接する伊賀の地は、伊賀街道、大和街道、初瀬街道の街道が通り、伊勢や東国へ行き来する人や物資の通り道として栄えました。

上野から長野峠を越え、津に至る全長五十キロメートルの街道で、古くは「伊賀越奈良道」と呼ばれました。江戸時代、伊賀、伊勢の二国の藩主になった藤堂高虎によって、伊賀と伊勢を結ぶ主要道として整備されました。藤堂藩の本城のある津と支城のある伊賀を結ぶ公用道として、また伊勢神宮に参拝する参宮道や伊勢伊賀間の物資の輸送路としても重用されました。

伊賀街道

(いがかいどう)

伊賀街道



●平田宿

藤堂藩が公用荷物を運搬するため領内の主要街道に設けた8つの宿場「伊賀八宿」のひとつ。宿場のあった大山田地区平田には、1階部分の間口が広い宿場町特有の町屋が残っている。

●平松宿

「伊賀八宿」のひとつで上阿波宿（元町宿）とも呼ばれた。往時の姿を残す旅籠「いたや」には、七福神をかたどった瓦が残るなど、伊賀地方独特の家並が見られる。



Located in the neighborhood of Kyoto and Nara, the ancient capitals of Japan, Iga prospered by the flow of people and goods coming from and going to Ise and the eastern countries using the main roads of Iga, Yamato and Hase that ran through Iga.



●鳥ヶ原宿本陣

大和街道を参勤交代で通行する大名が休憩・宿泊をした宿屋で、諸大名の宿札のほか、狩野派の屏風絵、山岡鉄舟の襖絵などを保存している。

関町の西の追分で東海道から分かれ、加太峠を越え、上野の城下町、鳥ヶ原地区を経て、奈良へ至る道で、江戸時代には「加太越奈良道」と呼ばれていました。東国と大和地方を結ぶ重要なルートで、江戸時代には

大名の参勤交代にもよく利用されました。鳥ヶ原地区には、諸大名が休息した宿屋（旧本陣）が残っています。



大和街道

(やまとかいどう)



●数馬茶屋

日本三大仇討のひとつ「伊賀越えの仇討ち」の舞台となった鍵屋の辻に整備された史跡公園内にある。建物は仇討にゆかりの茶屋「万屋」を移築している。

鍵屋の辻



●阿保(あお)宿

初瀬街道の宿場町であると同時に、上野に通じる上野街道と美杉村に通じる八知街道が分岐する交通の要衝で、今も風情のある街並みが見られる。



地藏道標

初瀬街道

(はせかいどう)

伊勢街道から松阪市で分岐し、市内の青山峠を越えて、奈良の初瀬(桜井市)に至る街道で、古くは、「青山越」「阿保越」とも呼ばれました。古代には、天照大神に仕える斎王が伊勢へ往来したと伝えられています。青山地区では、

初瀬街道の宿場町として「阿保」と「伊勢路」の宿が栄えました。今も旅籠の街並みや街道筋に建てられた常夜灯が、お伊勢参りの人々にぎわった往時の面影を伝えています。



参宮講の看板(たわらや)

Ninjas who lived in the shadows with lofty aims
Iga Ninja

高き志、影に生きた

— 伊賀忍者 — 忍び

忍者のふるさととして知られる伊賀。伊賀の歴史をひもとくと、ミステリアスな忍者の存在が見え隠れしてきます。



歴史の影の立役者

伊賀は、お隣の甲賀とともに忍びの里として有名です。全国に数多くの流派がある中、伊賀・甲賀が忍者の代名詞のようになったのは、同じ起源を持つこの二つの流派が兵術として最も優れていたためと考えられます。

忍者の活躍が華々しかったのは戦国時代です。伊賀の忍者、いわゆる伊賀者は各国の戦国大名に仕えました。江戸幕府の祖、徳川家康も本能寺の変の危急の際、伊賀者に護られ難を逃れたと伝えられています。伊賀藩主の藤堂家も忍びを伊賀者という役職で召し抱え、明治維新までその伝統は続きました。



忍者屋敷

Behind-the-scenes figures contributing to history

Together with its neighbor Koga, Iga is a famous ninja city in Japan. During the Warring States Period when ninjas were most active, Iga ninjas worked for feudal lords across the country. The Todo family, the feudal lord of Iga, also established a position called "Igamono" to employ ninjas. This tradition continued until the Meiji Restoration.



伊賀流忍者博物館

惟表れ対所も城陣等の利便の地とを
 悉くしゆり要多しといふも道を
 用ひに練るべくハ船ハ禪僧の劍術の
 理をよくあやう創をわて人と戦ふ
 時其術悟つこふきこと
 忍術の秘傳書
 万川集海

●萬川集海

延宝4年(1676)に伊賀湯舟出身の藤林保武が著した伊賀・甲賀流忍術を集大成した忍術の秘伝書で、「三大忍書」のひとつ。



●澤村家

伊賀を代表する忍家のひとつで、藤堂高虎の子、高次の代から明治維新まで藤堂藩に仕えた。現在も残る屋敷には火器や花火に関する古文書、水中たいまつなどの小道具を所蔵する。



●忍者伝承館

上野公園内にある伊賀流忍者博物館の中の一館で、忍者の暮らしぶりを再現したジオラマやゆかりの道具類を展示する。

歴史のロマンと神秘のベールに
 包まれた忍びの者。
 操る術の華やかさとは対照的に
 歴史の表舞台に出ることなく、
 天下国家のために身を捧げました。
 影の存在としての美学を貫いた忍びは、
 時代を超えた永遠のヒーローなのです。

いにしえ人の心が
 重なり合う忍術の地

伊賀人

伊賀は、これまでに多くの優れた人材を輩出しています。
近代文学に偉大な足跡を残した横光利一、
医学界で世界的な発見をした橋本策はその代表格です。

横光利一

Riichi Yokomitsu



新感覚派文学の旗手

横

光利一（二八九八〜一九四七）は、大正から昭和にかけて活躍した文学者です。親友の川端康成らとともに創刊した雑誌『文藝時代』は、新しい表現を提唱する新感覚派という文学グループの拠点となり、利一は新感覚派の天才と呼ばれました。

明治三十一年、福島県に生まれた利一は、小学校一年から四年を母親の出身地、伊賀町柘植（現・伊賀市野村）で過ごし、美しい自然に囲まれた中で豊かな感受性を育みまし

●文学碑

利一がしばしば訪れ、思索にふけたと伝えられる柘植公民館横の丘に築かれ、「蟻臺上に餓えて月高し」の句が刻まれている。



●横光公園

横光利一の生誕100年を記念して幼少期を過ごした地に整備された。公園内には柘植での思い出を描いた『洋燈（ランプ）』のモニュメントがある。

た。後年、利一は、柘植の友人に「やはり故郷と云えば柘植より頭に浮かんで来ません」と書き送っています。旧第三中学校を経て、早稲田大学進学のため上京した利一は文学に傾倒し、文壇の大御所、菊池寛に認められて、『文芸春秋』に『蠅』を発表して文壇にデビューしました。代表作には『紋章』『上海』などがあります。享年四十九歳。絶筆となった『洋燈』には、青春時代の柘植での思い出が描かれています。

偉大なる

The Great People of Iga
Great Minds of Iga

～伊賀の偉人たち～

研究で世界的発見を
成し遂げるとともに
郷里の地域医療に
後半生を捧げ、
真の医学者として
生涯を全うした。



Hakaru Hashimoto

橋本 策

伊賀の豊かな自然・風土・人情が
育んだ近代文学の巨星・横光利一
彼にとって伊賀は
生涯を通じて心のよりどころだった。

医学史に名を残す

橋

本策（一八八一～一九三四）
は明治十四年、伊賀町御代
（現・伊賀市御代）で四代続く医家
に生まれました。進学先の九州大学
医学部を卒業後、医局で研究を続け
た策は、ドイツの外科雑誌に「甲状
腺リンパ節腫瘍的变化に関する研究
報告」を発表しました。後にこの症
例は独立疾患として認められ、ハシ
モト病と命名されました。

三十五歳で帰郷し、
橋本医院五代目院長
になった策は、医師
として優秀なだけで
なく人格者だったこ
とから地域の人に慕
われ、その名声は県
外にまで届きました。



生誕地碑

心意気

Passionate Spirit
The spirit of the People of Iga

伊賀^{びと}人の想い

地域に根付き、先祖代々受け継がれてきた伝統文化は、
伊賀人の誇りであり、生きた文化遺産です。



Simple yet Heartwarming
Iga Pottery

素朴であたたかい

伊賀焼

野趣に富んだ土の風合いと炎が生み出す神秘、そこに匠の技が合わさって生み出される伊賀焼は、風雅でどこか温もりを感じさせる味わい深さが魅力です。



●伊賀焼伝統産業会館

歴史のある伊賀焼の魅力伝えるため、伊賀焼の作品や伊賀焼に関する資料を展示しています。研修室では、伊賀焼の体験教室も開催しています。

茶人に愛された器

伊

賀焼は歴史の古い焼物で、奈良時代に始まり、

平安時代から鎌倉時代にかけて存在を全国に知られるようになりました。中世に武士に侘び茶が広がると、大胆な造形と枯淡な味わいの伊賀焼は茶陶としてもはやされました。茶人でもあつた筒井定次が伊賀を治めた桃山時代には秀作が多く、古伊賀の名で珍重されています。現在も、伊賀焼の伝統は脈々と受け継がれています。多くの陶芸家が伊賀に窯を開き、伊賀焼の魅力を広げています。



●伊賀焼陶器まつり

毎年7月下旬、伊賀焼の中心地、阿山地区に伊賀焼の窯元が集結し、作品の展示即売会やお茶席などの催しが行われます。

使う人への心遣いと 匠の心意気が込められた器



●左/作業風景

成形には、手びねりやひもづくりなどの手作り成形やろくろ成形、型を使うたたら成形などいくつかの手法がとられる。

●右/窯焚きの様子

数日間にわたって、過酷なまでの炎の力で焼きぬくことによって、味わい豊かな伊賀焼が誕生する。

炎が生み出す 造形の妙

茶

陶として名だたる茶人たちに愛されてきた伊賀焼の特色は、整った形に取って手を加えて作り出す大胆な造形と土と炎が生み出す独特な風合いです。そして、伊賀焼の最大特徴であり、伊賀焼の美の原点と言えるのが火色です。

この火色を生み出すのが土と薪と炎です。穴窯に薪をくべ、普通の焼物よりも高い約千三百度以上まで窯の中の温度を高めます。この高温の状態です。長時間をかけて焼き締めることから、「伊賀の七度焼」という言葉が生まれたほどです。一度、窯に火を入れれば、三日から七日にわたって不眠不休で窯焚きは続けられ、ようやく作品が誕生します。薪の灰と粘土の成分が炎の力によって融合して、自然釉のピードロや焦げが器の表面を彩ります。ときに生じるゆがみやひびわれも破調の美として、見る人に深い感動を与えます。

豪放でいて枯淡な味わいもある伊賀焼は、まさに土と炎が生んだ一級の芸術品と言えるでしょう。

Wonder created by flames

The prominent feature of Iga pottery is its color created by the flames. Since Iga pottery items are fired at a higher-than-ordinary temperature of over 1300°C, they are covered with glass-like glaze and burns. Iga pottery is truly an art of excellence created by clay and flames.

Dishes cherished by masters of the tea ceremony

Iga Pottery has a long history that dates back to the Nara period. In the Medieval Period, its bold form and subdued refinement won popularity as tea pottery. The tradition of Iga pottery has been handed down through the generations and today many potters have kilns in Iga City.



Fruits of the Earth
Local Specialties and Events

伊賀牛

伊賀牛は伊賀盆地の澄んだ空気のもと、高度な肥育技術で丹精こめて育てられた黒毛和種牝牛です。肉色が鮮やかで柔らかく風味豊かな味わいは絶品です。

伊賀米

肥沃な土地と淀川源流の清水、米づくりに適した気候に恵まれた伊賀は古くから良質米の産地として知られています。伊賀米は味・香り・粘りの三拍子が揃っていると評判です。



大地の醸成

じょう
せい

— 特産・名物 —

滋味豊かな土地と清流と盆地の気候を存分に生かし、行き届いた人の手によって生み出された特産品は伊賀の魅力のひとつ。多彩で豊かな味わいは自然からの贈り物です。



伊賀酒

寒暖の差が大きく、冬の冷え込みが厳しい伊賀盆地は酒づくりに最適です。上質な酒米の伊賀産の三重山田錦を原料に伊賀の良水を使って醸造した地酒は芳醇な味わいが特徴です。



自慢の特産品

くみひも、かたやき、漬物など伊賀の豊かな自然と伝統を活かした特産品が揃っています。道の駅などでも購入することができます。



道の駅いが

全国初の自動車専用道路から直接アクセスできる道の駅です。地元の食材が味わえるレストランや伊賀米、醤油など特産品を揃える売店が人気です。

【住所】伊賀市柘植町6187-1 【定休日】年中無休 【お問い合わせ】0595-45-3513 【アクセス】名阪国道下り線伊賀ICより直進0.2km



道の駅あやま

人気の特産品コーナーでは伊賀焼など伊賀の名産品が販売されています。併設の直売施設では、地元の新鮮な野菜や花を購入できます。

【住所】伊賀市川合3370-29 【定休日】水曜（祝日は翌日休） 【お問い合わせ】0595-43-9955 【アクセス】名阪国道壬生野ICから車で約5分。名神高速道路栗東ICから車で約60分

伝わりゆく祭

— 祭 —

五穀豊穡、厄除けなど様々な祈りが込められた祭は、先祖の営みをいきいきと伝える地域にとってかけがえのない財産です。



うえの
てんじんまつり



Ueno Tenjin Festival

This is the annual autumnal festival of the Sugawara Shrine that is held for three days from October 23, featuring a procession of floats and a parade of floats. The parade, with its history of about 400 years, is a significant national intangible folk cultural asset, where gorgeous, elaborately decorated floats parade through this castle town, unrolling a picture scroll of history.

上野天神祭

城下町の秋を彩る豪華絢爛な時代絵巻は、約四百年の伝統を持つ町民文化の結晶です。

菅

原神社の秋の例祭として十月二十三日から三日間、城下町を舞台に様々な催しが華やかに繰り広げられます。祭のクライマックスは本祭の鬼行列とだんじり巡行です。重量百二十キロの日本一の大御幣に続いて、ユニークな面をつけた百数十体の鬼たちの行列と丸基のだんじりが城下町を練り歩きます。古くから城下町の商家の旦那衆が費を尽くしただんじりは、まさに動く美術品です。町衆の誇りと粋が息づく「上野天神祭のダンジリ行事」は、国の重要無形民俗文化財です。



●ひょうつき鬼

疫病退散を祈願する鬼行列。釣鐘や棒、髪をかつき、通りを右に左に千鳥足で歩くひょうつき鬼は鬼たちの中で一番の人気者だ。

Shogataudo Shushoe

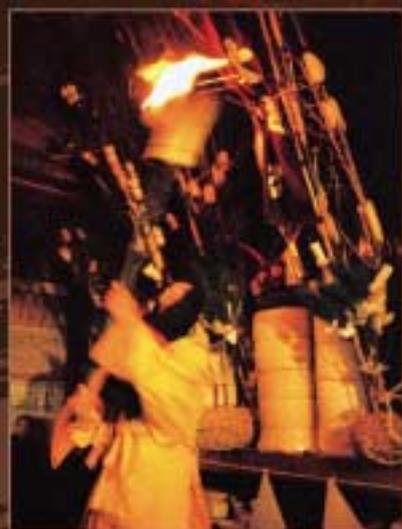
Shushoe is a traditional ritual held at the beginning of the year to pray for a bumper crop and ward off evil. A series of events are held from mid January, culminating with the climax of Comochi Narikosi on February 11, when a huge rice cake is dedicated to a shrine and Daitan Gyoho on February 12, where the syncretistic aesthetics of Shintoism and Buddhism are practiced.

修 正会は、年頭に五穀豊穰と厄除けを祈願する伝統行事です。儀式は一月中旬から始まり、二月十一日の「大餅練り込み」と十二日の「達陀行法」で最高潮に達します。大餅や節句盛りをお堂に奉納する大餅練り込みは、頭屋の人々が「エトウ、エトウ」の掛け声とともに本堂へ練り込む勇壮な行事です。翌日の達陀行法は、神仏習合の荒行で、鉦や太鼓が乱打される中、精侶が火の粉と水を振りまいて火と水の攻めぎ合いを表現する賑やかな儀式です。

先祖たちの信仰の在り様を今に伝えるこの行事は、伊賀に春を告げる新春の風物詩です。

正月堂 修正会

しょうがつどうしゅうしゅうかい



●火天

達陀行法では火天と水天の舞が奉納される。火天の腹目の僧侶が拍子板を振り回し、火の粉が堂内に舞に飛び散る。



勝手神社 神事踊り

かひのしんじやごんざんさい

五穀豊穡と村内安穩を祈願する
江戸中期発祥の古式ゆかしい踊り。



十 月開籠の例大祭に奉納される神事踊りは、疫病退散などの祈りを込めた豊年踊りが江戸中期に現在の形になったものです。踊り手は田楽様式のカッコ（カンゴ）太鼓を肩から提げ、背中にオチズイと呼ばれる飾りを付け踊ります。国の選択無形民俗文化財になっています。



植木神社 祇園祭

うきまきじんじやごんざんさい

疫病退散、五穀豊穡を祈る
伊賀地方有数の夏祭り。

大 山田地区の植木神社で七月最終土日に疫病退散と五穀豊穡を祈願して催されます。本祭には、白装束の男たちが「チヨーサヨ」の掛け声とともに約二百キロの

大神輿を大胆に傾け「くねる」の激しい動きが繰り返されるから三基の壮麗なだんじり、紙花、竹幣、花太鼓が平田の街道筋を巡行します。県の無形民俗文化財となっています。

「てじからじんじやれいさい」

手力神社

例祭

伊賀地方の奉納花火を締めくくる
伊賀流忍法の流れを汲む花火



阿 山地区の手力神社は、伊賀流忍者の真目で服部半蔵、百地丹波と並んで「伊賀の三大上忍」に数えられる藤林長門守の氏神をまつっています。十月に催される例

祭のメインイベントの奉納花火大会は、火筒やのろしなど火の忍術を得意とした長門守が花火を奉納したのが始まりと伝えられています。

「おむらじんじやれいさい」

大村神社

例祭

「証書式」にも登場する由緒ある古社の
神の使い、なますが活躍するユニークな神事



青

山地区の大村神社は地震除けの神様「要石」をまつています。要石社前の「水かけなます」に水をかけると願いが叶うと言われて

います。
十一月二、三日に催される例祭では、なますの花車や神輿、獅子舞が街道にくり出し、阿保宿がにぎわいます。



伊賀人

伊賀のまちは1年を通じて、バラエティに富んだイベントが盛りだくさん。
参加すれば、ふるさとを心から愛する伊賀人のマンパワーが伝わってくるはずです。



街中が忍者一色。忍者づくしのイベントが勢揃い。

伊賀上野 NINJA フェスタ

伊賀流忍術発祥の地ならではの忍者をテーマにした一大祭典です。4月上旬から5月上旬にかけてのフェスタ期間中は、土・日曜日・祝日を中心に忍者体験など様々なイベントが催され、忍者づくしの1日が満喫できます。

イベント 歳時記

4月

◆伊賀上野 NINJA フェスタ
(～5月)

◆霊山桜まつり

5月

◆余野公園
つつじ祭



◆青山高原つつじ

◆クォーターマラソン

◆忍びの里

◆レディーストーナメント

7月

◆伊賀市農業公園

◆農業ふれあいまつり

◆ひゅーまんフェスタ

◆伊賀焼陶器まつり

8月

◆青山夏まつり

◆大山田ふるさと夏まつり

◆しまがはら夏まつり



伝える

The Spirit of Iga passed on by its People
Events

～イベント～



上野城を背景に幽玄な世界が繰り広げられる。

お城まつり

9月から11月上旬にかけて、上野城本丸広場を舞台に、太鼓フェスティバル、菊花展などが開催されます。中秋の名月の前後にはメインイベントの薪能が開催され、市外からも大勢の観客が訪れます。



大鍋料理が圧巻。
「食」をメインに阿山の魅力をアピール。

けんずいまつり

祭りのタイトルになっている「けんずい」は、三度の食事の合間にとる飲食のことです。大鍋料理イベントやもちつきイベント、特産品販売など、舌と目で阿山の豊かな恵みを堪能できます。

◆市民夏のにぎわいフェスタ
「楽市・楽座」



9月
◆お城まつり「上野城薪能」
(～11月)

10月
◆芭蕉祭
◆伊賀市民美術展覧会

11月
◆けんずいまつり
◆しぐれ忌
◆大山田収穫まつり

◆伊賀市民文化祭
◆滝山溪谷紅葉まつり
◆忍者の里
◆伊賀上野シティマラソン
◆ふれあいフェスタin青山



※イベントは、諸般の事情により中止になる場合があります。

2月
◆伊賀地区駅伝競走大会

第3章

煌めく人・まち

A Sparkling City and People
A city inspired by the People of Iga

伊賀人が輝かせるまちづくり

「人が輝く、地域が輝く、住み良さが実感できる自立と共生のまち」
を実現するため、まちを挙げての伊賀人の挑戦が始まっています。





のびのびと、

健やかに暮らせる

うるおいあるまちづくり

安心
安全

快適
便利

子どもから高齢者まで誰もが不安や心配を感じることなく、心も身体も
気持ちよく暮らせるまちづくりを進めています。

暮らしやすさを追求

市 民一人ひとりが、住み慣れたまちで一生を安心して暮らせるように、福祉、

保健、防災、生活環境に関わる様々な施策を実施しています。子どもや高齢者など社会的に弱い立場の人が、不安や不便を感じずに暮らせるように、日常生活がしやすく、互いに支えあう地域社会づくりに取り組んでいます。また、恵まれた緑と水を活かし、自然と調和した居住空間の創造に努めています。

Perpetual Quest for Ease of Living

Iga City implements various measures related to welfare, healthcare, disaster prevention and the living environment in an effort to achieve a city where every citizen can live his or her entire life in a familiar and secure environment. The City also strives to create a local community where people support one another and a living space rich in greenery and water that is in harmony with nature.

授産施設 きらめき工房
青山分場



名阪国道



伊賀鉄道 (忍者電車)





消防出初式



わ たしたち健康の駅長
は「健康寿命をのば
すお手伝い」という目的で、
各地の駅長が独自に健康に
関する様々な活動を行って
おり、年2回の広報「すこ
やか便り」の発行やオリジ
ナル体操である「忍にん体
操」の普及活動に力を入れ
ています。今、わたしの地

健康はみんなの願い



域では、毎週土曜日に体育館で1時間、音楽にあわせて歩く「スポーツウォーキング」を実施していて、30代後半から70代までたくさんの方が元気に歩いて汗を流しているんですよ。健康に関する情報があふれている現在、「健康でいたい」という思いは唯一皆さんに共通している願いであると感じています。

今後は、ライフスタイルが多様化する中であっても、市民の皆さんが健康づくりを気軽に楽しく行えるよう、会全体で取り組んでいきたいと思っています。

「伊賀市健康づくり推進員（健康の駅長）」 **増田みのり** さん



ひとが輝く 地域が輝く
～住み良さが実感できる自立と共生のまち～



自主防犯パトロール

伊賀市には自然、歴史、文化という優れた地域資源があります。地域の宝ともいえる伊賀市らしさを守り伝え、住民の一体感を醸成しています。

ふれあいを大切にし、 地域の資源を守り 伝えるまちづくり

地域資源が育む郷土愛

ま ちの一体感を育てる郷土愛の源になる自然や歴史、文化などの伊賀市の財産を継承していくために、循環型社会の構築や地場産業の振興に取り組むとともに、伊賀焼をはじめとする伊賀ブランドや松尾芭蕉や伊賀忍者に代表される歴史・文化を積極的に全国に発信しています。

また、地域の大切な宝で、まちの次代を担う子どもを産み育てやすい環境づくりにも努めています。

Love for one's hometown nurtured by local resources

Iga City intends to nurture love for one's hometown and develop a sense of unity among citizens by passing down our proud history, culture and nature, including Iga pottery, Matsuo Basho, and the Iga ninja, leveraging them for further regional development and disseminating them throughout the nation.



乳幼児教室びかびか



伊賀学検定試験

キラリ 2 自治と共生

壁を感じないまちに

伊賀市の人口の約5%は外国籍住民で、その数は年々増えています。

しかし、言語や文化の違いから様々な問題が起こっています。そこで「通訳という手段を生かし、言葉の壁を乗り越えて共に住み良いまちづくりをする」ことを目指しNPO法人「伊賀の



伝丸」を設立しました。多

言語の通訳や翻訳、多言語生活相談などを行っています。また、ボランティア団体として設立した「伊賀日本語の会」では、外国籍住民のための日本語教室を中心に活動しています。これらの活動をする中で、外国籍の方から「伊賀と伊賀に住む人が好き」と言ってもらえることがとてもうれしいですね。

言葉や文化の壁を越えて、外国籍の方も日本人も同じ伊賀市民として共に暮らせるまちを目指し、今後も活動を続けていきたいですね。

「伊賀日本語の会」代表
NPO法人「伊賀の伝丸」副代表理事 **菊山 順子** さん



豊かな心を育み、 すべての人が生きがいを 持てるまちづくり

意欲
平等

未来に明るい希望を抱かせ、やる気と意欲を喚起するため、人づくりや雇用の場づくりに取り組んでいます。

まちの活力と意欲を創出



文 化・芸術・スポーツ活動は、豊かな心を育みます。市民一人ひとりが生涯を通じて生きがいを持ち、真に豊かな生活が送れるよう、学習・スポーツ活動に取り組める環境を整備しています。

また、まちの未来を拓く人材育成のために、伊賀市らしい特色ある学校づくりを進めています。まちの活力と安定した市民生活を支える産業の振興にも取り組み、雇用の場の拡充を図っています。

Efforts to harness the vigor and enthusiasm of the people

In an effort to enable every citizen to lead a meaningful and fulfilling life in the city, Iga City supports learning and sports activities. It is also committed to building a unique school education system, promoting industries that support the lives of citizens and expanding employment opportunities.



上野図書館



産学官セミナー





ゆめぼりす伊賀の街並み

キラリ☆3 自治と共生

人権は身近な問題

地 区人権啓発草の根運動推進会議は、自治

会やPTA、老人クラブなどの協力を得て昭和58年に発足しました。地区住民に対する同和問題をはじめ人権問題に対する学習会や講演会、コンサートなどを行い、地域における住民啓発を進めています。しかし、最近ではイベント参加者の顔ぶれが固定化してきていることや、若い世代の参加



者が少ないことが気になりますね。

同和問題をはじめ高齢者などの様々な問題を、地域の中で身近な自分たちの問題として位置づけ、人権啓発の取り組みを継続して進めていきたいと思っています。



人権啓発「地区草の根運動推進会議連絡会」会長 八尾 光祐 さん

ひとが輝く 地域が輝く
～住み良さが実感できる自立と共生のまち～

市民が主役、 地域が主体となる 分権型のまちづくり

分権
自治

市民が主人公になり、市と協働して、伊賀市民の、伊賀市民による、伊賀市民のための市政の実現に取り組んでいます。

市民が主役、地域が主体



民自治と補完性の原則のもと、伊賀市自治基本条例を制定し、分権型のまちづくりを進めています。市内各地域の実情に合った施策を住民自らが選択し、主体的に活動する住民自治の支援に努めています。また、市民の声がまちづくりに反映されるよう、パブリックコメントなど市民の意見を聴いて対話する機会を設けるなど、まちを良くしていくため、市民と市が積極的に協働しています。

An autonomous community where citizens are major players

In compliance with the principle of self-governance by residents, Iga City has established the Iga City Basic Ordinance of Autonomy to promote decentralization. While striving to support activities for the promotion of self-governance by residents, the City actively collaborates with citizens so that their opinions can be fully reflected in municipal activities, such as a program to invite public comment.



忍者議会



子延の水車





住民自治協議会環境活動報告会

キラリ 自治と4 共生

住民主体のまちづくり

島 ケ原地域まちづくり協議会は、発足から

3年経ち、現在総勢約90名で活動しています。主な活動は健康推進事業やごみ不法投棄監視パトロール、地域防災ハザードマップの作成、小中学校児童生徒の登下校安全サポート、島ヶ原会館指定管理事業など多岐



竹灯りの宴

にわたり、一方では広報「しまがはらだより」を発行し、住民への周知・啓発にも努めています。発足当初は、協議会に対する住民の関心も低く、委員の間でも参加意識に欠ける面が見受けられました。が、年々実績を重ねるにつれ、住民主体によるまちづくりの必要性の理解が深まってきたように感じています。

皆さんのまちづくりに参加する意識がさらに高まるよう裾野の拡大に努めていきたいです。協議会の活動のさらなる定着に向けて、市と協働して取り組んでいきたいですね。

「島ヶ原地域まちづくり協議会」会長 **奥西 繁** さん



伊賀人

～フォトギャラリー～



伊賀地域広報キャンペーンスタッフ「伊賀っ娘」



自然いっぱいの伊賀が大好き!





光る

The Shining People of Iga
Photo Gallery

豊かな自然に恵まれ、
受け継がれた歴史文化の薫る伊賀市は、
たくさんの笑顔であふれています。



だれもが元気に暮らせる伊賀が大好き!



伊賀対甲賀手裏剣対決



大きな声援で私たちに力をくれる
伊賀のみんなが大好き!

市民クラブチーム 伊賀FCくノ一

1976年創部の「伊賀上野くノ一」
が母体で、2000年にスポンサー
が撤退した以降は、市民クラブ
チーム「伊賀FCくノ一」として
生まれ変わり、今年で8年目を
迎える。2006年の兵庫国体
では5年ぶり2度目の優勝を
遂げた。

❁ 尼ヶ岳

標高957.6m、津市の境界にそびえたち、山容が富士に似ていることから、「伊賀富士」とも呼ばれています。クマザサ、ススキが広がる頂上からの景色は、一見の価値があります。



❁ 青山高原

室生赤目青山国定公園の中心にあり、起伏のゆるやかな高原で、春にはアセビ・ツツジ、秋にはススキなど四季折々の自然が楽しめます。また、高原全体では32基の風力発電の風車があり、高原に彩りを添えています。



❁ 岩倉峽

木津川の渓谷沿いにあり、桜・もみじや、巨岩や瀬、淵などの変化に富んだ自然を満喫できます。また、キャンプ場・トリム広場・見晴らしの丘・つり橋などの施設も充実しており、家族連れなどでにぎわいます。



❁ 白藤滝

滝川上流の高さが15mある滝で、近くには不動明王が祀られ、夏には涼を求めて、秋には紅葉を楽しむ人々が訪れます。11月3日には滝周辺で、紅葉祭りが開催され、たくさんの参加者で賑わいます。

Casual Tour around Iga

「伊賀ぶらり巡り」

伊賀市にはまだまだ魅力的なところがたくさん。
見てよし、食べてよし、遊んでよしのおすすめスポットを
ぶらりと巡ってみませんか。

❁ だんじり会館

「上野天神祭」で進行する豪華に飾られた「だんじり」や「鬼行列」などを常設展示。300インチ3面マルチスクリーンによる臨場感あふれる映像で、城下町上野の風土と自然を体験できます。



❁ 旧崇廣堂

文政4年（1821）に津藩主藤堂高見の時に、藩士の子弟の教育のために藩校有造館の支校として建てられたものです。現存している藩校としては近畿・東海地方においてはここしか見ることができません。

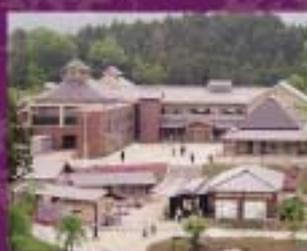


❁ 旧小田小学校本館

明治14年に建てられた洋風の小学校で、現存する小学校舎として三重県下で最も古く、県指定文化財に指定されています。木造二階建ての寄棟造りで、二階正面のバルコニーが珍しく、当館を鑑びます。

❁ 伊賀越資料館

日本三大仇討の一つに数えられる伊賀越健屋の辻の決闘。その健屋の辻にある資料館。館内には、刺客常木又右衛門の自筆の起請文や当時の遺品などの他に、幕国作の伊賀越え仇討ちの絵巻などを展示しています。



大山田温泉「さるびの」



鳥ヶ原温泉「やぶっちゃん」

伊賀市には自慢の温泉が数多くあります。忍者の里の温泉で、心も体もリフレッシュしませんか？

伊賀自慢の
温泉郷

滋賀県 甲賀市

滋賀県 甲賀市

三重県 亀山市

奈良県 奈良市

奈良県 山添村

三重県 津市

三重県 名張市





伊賀市マップ

伊賀市には、たくさんの史跡や景勝地が点在しています。
まちを巡れば、感動を与えてくれるすばらしい自然・
文化と触れ合えます。



京都府
南山城村



上野森林公園



余野公園



阿山ふるさとの森公園



伊賀くみひもセンター組匠の里



馬野溪谷



青山ハーモニー・フォレスト

伊賀歴史年表

過去は現在に、現在は未来に繋がっています。
伊賀を舞台に連続と繰り返し広げられてきた
様々な出来事を振り返ってみましょう。

其の壱

- 旧石器時代
- 縄文時代
- 弥生時代
- 古墳時代中期
- 古墳時代後期
- 宣化元 (五三六)
- 飛鳥時代
- 大化年間 (六四五～四九)
- 天武元 (六七二)
- 天武九 (六八〇)
- 持統六 (六九二)
- 和銅四 (七一)
- 天平一三 (七四一)

- 比土に石器を使った人々の痕跡が残される
- 市部(森脇遺跡)や外山(追越遺跡)などで土器を使った人々の生活が始まる
- 服部町(小芝遺跡)、才良(才良遺跡)などで稲作が始まる
- 御墓山古墳や石山古墳などの大型前方後円墳が築造され始める
- 城之越遺跡(比土)で水の祭祀が行われる
- 市内の各地に中小の古墳群が築造される
- 伊賀国の名称が初めて史料に登場する
- 三田・才良・鳳凰寺に古代寺院が建立される
- 伊賀国、伊勢国に編入される
- 壬申の乱で、大海人皇子(天武天皇)が吉野から伊賀を越え伊勢に向かう
- 伊賀国、伊勢国から独立し、国府を阿閉郡に置く
- 天皇の伊勢行幸に際し、阿保頓宮に宿泊する
- 高ヶ原大道を通る官道が開設され、新家駅(新居)が置かれる
- 伊賀国分寺・国分尼寺(西明寺)が設置される



御墓山古墳



城之越遺跡

伊賀学

基礎知識

伊賀をより深く理解するために知っておきたい歴史や文化。全部答えられればあなたは立派な「伊賀通」です。

問 1

伊賀上野には芭蕉翁ゆかりの「芭蕉五庵」がありました。それに当てはまらないのは？

- ① 養虫庵
- ② 東麓庵
- ③ 西麓庵
- ④ 北麓庵

問 2

芭蕉翁の元服後の名前は、何というのでしょうか？

- ① 金作
- ② 半七
- ③ 甚七郎
- ④ 宗房

天平年間

天平勝宝(七四九〜五六)頃

弘仁年間(八一〇〜一三三)

長徳二(九九六)頃

長元三(一〇三〇)

治承元(一一七七)

治承四(一一八〇)

寿永二(一一八三)

建仁二(一一〇二)

暦応三(一一四〇)頃

文明五(一一四七三)

文明一五(一一四八三)頃

明応四(一一四五)

永祿一二(一一五六九)

天正七(一一五七九)

天正九(一一五八一)

この後数百年、盛んに玉瀧など市北部の田島山林が東大寺などの中央寺社に寄付され、荘園化する。鳥ヶ原に観菩提寺が建立される。

●日本最古の物語集『日本霊異記』に喰代の地名が登場する

●清少納言の『枕草子』に「たれその森」(市部)が登場する

●伊賀守源光清が伊勢神宮神民に非法を加えたとして配流される

●平田の植木神社に大般若経六百巻が奉納される

●伊賀平氏(平田家継)が近江源氏を攻撃する

●源義経、木曾義仲追討のため伊賀を通る

●重源創建の新大仏寺(阿波)に大仏が完成する

●伊賀国の悪党、東大寺の荘園をたびたび襲う

●一条兼良の著『藤川の記』に玉瀧・上野・鳥ヶ原などの地名が見える

●応仁の乱後も伊賀衆が大和・山城などへ出陣し活躍する

●天台真盛宗の祖、真盛上人が西蓮寺(長田)にて没す

●伊賀衆、外敵に備え、「惣国一揆掟之書」を作る

●織田信雄、伊賀に侵攻するが伊賀衆に敗北する(第一次天正伊賀乱)

●織田信長、再び伊賀攻めを開始し、伊賀衆敗北する(第二次天正伊賀乱)



西蓮寺



新大仏寺

問 3

藤堂藩第3代の藩主の名前は？

- ① 藤堂高次
- ② 藤堂高久
- ③ 藤堂高睦
- ④ 藤堂高敏

問 4

天守閣はよく別名で呼ばれることがあります。上野城の天守閣の別名は()と呼ばれています。

- ① 白鷺城
- ② 白鳳城
- ③ 千鳥城
- ④ 白鳥城

問 5

次のうち忍術の極意を表現しているのは？

- ① 自分より強い相手とは戦うな
- ② 刀下不動心
- ③ 気のみて真実を突け
- ④ 天の時に惑わされるな

伊賀歴史年表



- 天正九 (一五八二)
- 天正一〇 (一五八二)
- 天正一三 (一五八五)
- 天正一四 (一五八六)
- 文禄三 (一五九四)
- 慶長一 (一六〇六)
- 慶長一三 (一六〇八)
- 慶長一六 (一六一一)
- 寛永一 (一六三四)
- 正保元 (一六四四)
- 正保四 (一六四七)
- 万治三 (一六六〇)
- 天和三 (一六八三)
- 元禄二 (一六八九)
- 元禄一三 (一七〇〇)
- 元禄一三 (一七〇〇)
- 享保一〇 (一七二五)
- 文化一二 (一八一五)

- 堺の商人津田宗及、茶会に伊賀童を飾る
- 徳川家康、本能寺の変後、服部半蔵らの助力により堺から伊賀を通り三河に帰る
- 豊臣秀吉、筒井定次を大和郡山から伊賀に移封する
- この頃から伊賀国の検地行われる
- 秀吉の家臣、伊賀国中で山検地を行う
- 上野城下で大火が起きる
- 筒井定次が改易され、藤堂高虎が伊予今治から伊勢・伊賀へ移封される
- 高虎が伊賀上野城を修築、天守閣の造営を始めるも、翌年台風雨により、倒壊
- 渡辺数馬が荒木又右衛門の助力を得て川合又五郎を討つ(伊賀越えの仇討ち)
- 松尾芭蕉(幼名金作)が生まれる
- 西島八兵衛、山畑新田を開く
- 上野天神祭が再興される
- 藤堂藩の郷中十七ヶ条(農民統制の基本法)出される
- 芭蕉翁、江戸深川から「奥の細道」の旅に出る
- 伊賀国と山城国の国境が確定する
- 伊賀国と近江国の国境が確定する
- 阿保町で大火、一四七軒焼失
- 長田川(木津川)、笠置、小田間の水運が開かれる



春日神社雨乞願解絵巻



上野城二十三号絵図

伊賀学

基礎知識

問 6
忍術を集大成した伝書で、伊賀本と甲賀本がある忍書は？

- ① 『正忍記』
- ② 『萬川集海』
- ③ 『忍秘伝』
- ④ 『忍法皆伝』

問 7
次の人物の中で、伊賀流の忍者は誰？

- ① 風魔小太郎
- ② 望月千代女
- ③ 猿飛佐助
- ④ 霧隠才蔵

文政四 (一八二二)

嘉永七 (一八五四)

慶応四 (一八六八)

明治四 (一八七一)

明治四 (一八七一)

明治七 (一八七四)

明治七 (一八七四)

明治二〇 (一八八七)

明治二二 (一八八九)

明治二三 (一八九〇)

明治三〇 (一八九七)

明治三二 (一八九九)

明治三五 (一九〇二)

明治三七 (一九〇四)

明治三八 (一九〇五)

大正五 (一九一六)

大正七 (一九一八)

大正一一 (一九二二)

津藩校有造館の支校として崇廣堂(丸之内)が建てられる

伊賀上野大地震で市北部は大きな被害を受ける

戊辰戦争に藤堂藩から兵を出す

地租改正に不満を持つ農民たちが暴動を起こす

小田町他五ヶ町村、水難を逃れ高台への移転が始まる(避水移居)

旧藤堂藩の御書院跡で県下最初の博覧会が行われる(伊賀上野博覧会)

県下最初の銀行である国立第八十三銀行が設立される

上野電信局が設置される

市町村制が施行、上野町、烏ヶ原村が誕生する

関西鉄道の草津〜柘植間開通、柘植駅開業、引き続き柘植〜河原田間開通

関西鉄道の柘植〜加茂間開通、佐那具、伊賀上野、烏ヶ原駅開業

三重県第三尋常中学校設置(現上野高等学校)

廣澤徳三郎、東京から組紐業を伊賀に導入

蔵倉水電(株)が開業し上野町に配電

公共図書館を崇廣堂の一部に開設

伊賀軌道(株)、上野連絡所(伊賀上野)〜上野町(上野市)間開通

上野町・三田村・烏ヶ原村などで米騒動事件起こる

伊賀鉄道(株)、上野町(上野市)〜名張(西名張)間開通

伊賀水平社設立される



上野高校明治校舎



法華経塔

問 8

10月25日に本祭の行われる、鬼行列などが出る祭りは?

① 敢国神社おんまつり

② 上野天神祭

③ 植木神社祇園祭

④ 古山祭

問 9

上野城跡は、() 史跡です。

① 国指定

② 国登録

③ 県指定

④ 市指定

問 10

上野高校明治校舎が建てられたのは、明治()年です。

① 11

② 22

③ 33

④ 44

伊賀歴史年表



- 昭和三 (一九二八)
- 昭和五 (一九三〇)
- 昭和一〇 (一九三五)
- 昭和一一 (一九三六)
- 昭和一二 (一九三七)
- 昭和一七 (一九四二)
- 昭和二〇 (一九四五)
- 昭和二二 (一九四七)
- 昭和二六 (一九五一)
- 昭和二七 (一九五二)
- 昭和二八 (一九五三)
- 昭和三〇 (一九五五)
- 昭和三四 (一九五九)
- 昭和三九 (一九六四)
- 昭和四〇 (一九六五)
- 昭和四二 (一九六七)

- 都市ガスの供給開始
- 参宮急行電鉄が開通する
- 伊賀文化産業城（白鳳城）が竣工する
- 伊賀上野全国博覧会を上野公園で開催
- 上野上水道敷設
- 周辺の七町村が合併し上野市が誕生する
- 俳聖殿が竣工する
- 終戦間際に緑ヶ丘本町・中町一帯に海軍航空隊の飛行場が建設される
- 第一回芭蕉祭開催
- 昭和天皇が丸之内・府中・柘植地区を巡幸される
- 上野公園で世界子ども博覧会を開催
- 東近畿大水害および台風十三号により伊賀全域で大きな被害を受ける（二八災害）
- 各地で市町村合併が進み、大山田村、青山町が誕生する
- 芭蕉翁記念館が竣工する
- 伊勢湾台風による被害甚大
- 柘植町と春日村の合併により伊賀町が誕生する
- 忍者屋敷開設
- 上野市庁舎（現伊賀市本庁舎）完成
- 名阪国道開通
- 阿山町が誕生する



東近畿大水害



新天地商店街

伊賀学

基礎知識

問 11

伊賀市にある三重県で最大級の古墳は？

- ① 御墓山古墳
- ② 石山古墳
- ③ 勘定塚古墳
- ④ 車塚古墳

問 12

江戸時代において上野と津を結ぶ街道は、（ ）と呼ばれています。

- ① 大和街道
- ② 伊賀街道
- ③ 初瀬街道
- ④ 東海道

昭和四五（一九七〇）

伊賀地区広域市町村圏事務組合、上野市ほか4カ町村環境衛生組合設立

昭和四六（一九七一）

伊賀北部・南部消防組合がともに設立される

昭和五〇（一九七五）

第三十回国民体育大会サッカー競技上野市で開催

昭和五三（一九七八）

上野総合市民病院が四十九町へ移転開設される

昭和五七（一九八二）

伊賀焼が伝統工芸品に指定される

平成二（一九九〇）

伊賀上野ケーブルテレビ（株）発足

平成六（一九九四）

芭蕉翁誕生三五〇年記念事業実施

平成七（一九九五）

阿山町に農事組合法人「伊賀の里モクモク手づくりファーム」が設立される

平成八（一九九六）

第一回伊賀上野NINJAフェスタ開催

平成九（一九九七）

（財）上野（現伊賀）文化都市協会設立

平成一〇（一九九八）

上野新都市（ゆめほりす伊賀）街びらき

平成一一（一九九九）

上野市（現伊賀市）農業公園「市民ふれあい農園」開園

平成一二（二〇〇〇）

伊賀介護保険広域連合発足

平成一三（二〇〇一）

伊賀の国大山田温泉「さるびの」竣工

平成一四（二〇〇二）

国会等移転審議会が「三重・畿央地域」を首都機能移転先候補地として答申される

平成一五（二〇〇三）

伊賀まちかど博物館開館

平成一六（二〇〇四）

伊賀地区市町村合併協議会設置（法定協議会）
上野市、伊賀町、烏ヶ原村、阿山町、大山田村及び青山町が合併し伊賀市が誕生する



伊賀の里モクモク手づくりファーム



ワールドカップ南アフリカ共和国キャンプ



合併調印式

問 13

伊賀に生まれて能楽を確立した観阿弥が、はじめ修行したのは何の師匠？

- ① 近江田楽
- ② 大和猿楽
- ③ 雅楽
- ④ 礼楽

問 14

横光利一の絶筆『洋燈（ランプ）』は、母の郷里での幼い時の記憶を綴ったものですが、それはどこでの思い出？

- ① 上野
- ② 柘植
- ③ 加太
- ④ 大津

問 15

『徒然草』の作者、吉田兼好が晩年を過ごしたという伝承の「兼好塚」があるのは？

- ① 伊賀市霧生
- ② 伊賀市種生
- ③ 伊賀市玉滝
- ④ 名張市赤目

市民憲章

私たち市民は、次の6つの原則により自治を進め、“ひとが輝く 地域が輝く”
伊賀市のまちづくりの実現を目指し、この憲章を定めます。

1. まちづくりに関する情報をみんなで共有します。
1. まちづくりには、みんなが参加できるようにします。
1. まちづくりは、みんなで作った計画に基づき実施します。
1. まちづくりは、まず自ら行い、さらに地域内で助け合って進めます。
1. まちづくりは、互いに連携・協力しながら進めます。
1. まちづくりの実施を評価し、次の活動に活かします。

市花・市木・市鳥



伊賀市の花
ササユリ



伊賀市の木
アカマツ



伊賀市の鳥
キジ

市歌

伊賀市市歌

- 一、風爽やかな この街は
四方の山並み 緩やかに
優しく囲む 我が郷土
古からの 伊賀の名に
新たな鼓動 感じみる
- 二、白鳳城を 仰ぎつつ
育つ理想の 気高さは
今に伝わる 技と知恵
俳聖までも 世に出す
故郷伊賀は 文化咲く
- 三、川も交わり 大海へ
市民の心 合わさって
未来の伊賀市 見えてくる
平和の園を 永に
願い羽ばたく 宙へ
願い羽ばたく 宙へ

市勢要覧発刊のごあいさつ

Greetings from the Mayor upon the Publication of the Iga City Overview



平成16年11月に6市町村の合併により誕生した伊賀市は、大阪と名古屋の中間、三重県北西部に位置し、四方を山々に囲まれた盆地で、豊かな自然に恵まれています。また、京・大和文化の影響を受けながらも、独自の文化を醸成し、俳聖松尾芭蕉翁や伊賀流忍者のふるさととして歴史文化の薫るまちとして発展しております。

さて、伊賀市では、このような古から受け継がれた貴重な財産を守りつつ、市の将来像と目標を「ひとが輝く 地域が輝く ～住み良さが実感できる自立と共生のまち～」とし、伊賀市独自の自治の確立と推進による自立したまちづくりの実現をめざしております。

本誌は、このような、伊賀市の取り組みをはじめ、歴史、文化、豊かな自然、産業などをご紹介します。多くの皆様にご高覧いただき、本市をより一層ご理解いただくための一助となれば幸いです。

平成19年12月

伊賀市長 今岡 睦之

Iga City, which was born in November 2004 through a merger of six municipalities, is located between Osaka and Nagoya in the northwestern part of Mie Prefecture. It is a basin surrounded with mountains and blessed with rich nature. While influenced by the Kyoto and Yamato cultures, it has formed its own unique culture and continues developing as a city rich in history and culture, as well as being the hometown of haiku master Matsuo Basho and the Iga ninjas.

While maintaining the invaluable assets we inherited from our predecessors, Iga City has set the motto of "An easy-to-live city where people and communities shine, that strives for independence and harmonious coexistence" as its future goal. It strives to become an independent city by establishing and promoting the city's unique autonomy.

This brochure introduces Iga City's commitment, history, culture, natural bounty and industries. We would be more than happy if you would browse through it and deepen your understanding of Iga City.

December 2007

Mutsuyuki Imaoka, Mayor of Iga City

伊賀 *iga*
賀

自然と共生の精神
まち煌めく

伊賀市市勢要覧

発行:伊賀市 総務部 総務課

〒518-8501 三重県伊賀市上野丸之内116番地

TEL(代表): 0595-22-9611

FAX: 0595-24-2440

<http://www.city.iga.lg.jp/>

この冊子は、森林認証のバルブを
一部配合した紙を使用しています。

